



独立行政法人国立病院機構

東京医療センターだより

National Hospital Organization Tokyo Medical Center 第95号

発行日 令和5年6月
発行人 新木 一弘
〒152-8902
東京都目黒区東が丘
2-5-1
電話 03-3411-0111
<https://tokyo-mc.hosp.go.jp>

基本理念 東京医療センターは患者の皆様とともに健康を考える医療を実践します。



主任診療放射線技師 宮下 慎也

新リウマチ・膠原病内科科長挨拶

リウマチ・膠原病内科科長 鈴木 勝也



令和5年4月に当院に着任を致しました鈴木勝也（かつや）です。平成8年に医学部卒業後、内科およびリウマチ膠原病の診療、研究、教育に一貫して従事しております。当科は、関節リウマチに

代表される「リウマチ性疾患」や全身の臓器に炎症をおこす「膠原病（こうげんびょう）」の診療を担当しており、年間2,000名が外来通院され、150名の入院加療を行っています。

リウマチや膠原病は幅広い年代で罹患し、特に高齢期の発症が近年増加傾向となっています。免疫や炎症を標的とした新しい薬剤の登場により、治療の選択肢は大きく広がりました。関節リウマチでは発症早期に適切な治療を行い、効果不十分な場合には通院での点滴、在宅自己注射などを

用いて、半数近くの方は症状がほぼない「寛解状態」となっています。その一方で依然として十分な対処が難しい症状もございます。

当科では、最新の専門的な知見に基づきリウマチ専門医を中心とした多職種連携によって、お一人お一人の皆様最適な医療を提供してまいります。「リウマチや膠原病が疑われている」、「長年治療しているがあまり芳しくない」など、様々なお困りの事柄を是非とも当科へご相談ください。当院の関連諸部門、医療福祉施設、大学病院等とも適時に連携を行い、病気の予防や医療課題の解決に向けて、皆様のご期待に応えられるように精一杯頑張りますので、何卒宜しくお願いを申し上げます。



東京医療センターだよりは
QRコードからもご覧になれます



新放射線診断科科长挨拶

放射線診断科科长 奥田 茂男



私は医学部を平成元年に卒業し、画像診断、殊に体部MRIを専門に診療・研究してきました。MRIは被ばくなく、優れた組織コントラストを持ち（非造影剤でも濃淡で病変を認識できる）、他検査では

得難い情報（水の動きやすさや神経走行、軟骨や腱・半月板等の関節組織、血流…）を得られる利点がある反面、検査時間が長いという難点があります。このため、こなせる件数に限度が生じます。また、狭い筒の中で長時間、騒音の下でじっとしていただく被検者の方に無理を強いている面もあります。高速撮像には画質劣化という取引があり、そのバランスで撮像条件が決まります。前任の樋口先生は画期的な高速撮像を「自ら」考案して、

装置に実装した方です。私のスケールはもっと小さいですが、心臓MRIで「開発企業」から提供してもらった12倍速のシネ・モード撮影の調整や正確性を追求しました。人工知能の助けを借りながら画像を構成する手法です。少しでも負担の少ない効率的な検査の実現がこれからも重要で、興味の尽きないところです。もちろん、このような開発ばかりではなく、臨床画像診断も広い範囲で行っております。こちらに赴任してまず、医員・専攻医・技師・看護師の皆さんが団結・努力してくれていると感じました。この環境は数ある放射線科の中でも随一と感じております。私も貢献する所存ですので、今期新たに赴任いたしましたIVRの伊東伸剛先生共々、どうぞよろしくお願いいたします。

新リハビリテーション科科长挨拶

リハビリテーション科科长 小林 由紀子



昨年4月に東京医療センターへ着任いたしました。今年度は科の責任者となり、日々勢いを増す木々の緑に励まされるようにして新たな任に取り組んでおります。

リハビリテーション科では、当院へ入院された方を中心にリハビリテーション評価・治療を行っております。脳卒中や骨折のようないかにもリハビリテーション訓練が必要そうな方ばかりでなく、がんや肺炎、発熱、手術後の方など、体調不良で動けなくなったり、治療のために安静が必要で体力が落ちたりした方についても、担当医からの依頼を受けて対応しております。特に、嚥下障害に関してはあらゆる科からご相談を受ける機会が多く、ベッドサイドでの評価に加え、嚥下造影、嚥下内視鏡（耳鼻咽喉科と共に）といった検査を行いながら、皆様が食事を

楽しく食べる、十分な栄養量を安全に摂るために、訓練内容や食形態、食事時の姿勢や工夫などを考えております。

神経伝導検査・筋電図検査もリハビリテーション科で実施しております。金曜日の午後には、地域連携枠として近隣の医療機関からの御依頼をお受けしておりますので、手根管症候群や橈骨神経麻痺のような局所的な末梢神経障害、糖尿病性神経症のような多発末梢神経障害、脊椎疾患と運動ニューロン病の鑑別など、筋力低下や感覚障害の診断と障害程度の評価に役立ててください。

各科の医師、看護師、リハビリテーション訓練を担当する理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士、薬剤師、放射線技師、相談員ら、多くの職種と連携を取りながら、当院で診療を受ける皆様の身体・認知機能、生活や活動がより良いものとなるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新任の挨拶（常勤医師）

腎臓・内分泌・代謝内科医長 小林 佐紀子



2023年4月より腎臓・内分泌・代謝内科に赴任いたしました、小林佐紀子と申します。慶応義塾大学医学部を卒業後、同大学の腎臓内分泌代謝内科に所属し、内分泌診療に従事してまいりました。当院でも内分泌を中心とした診療に従事させていただきますと幸いです。他科の先生方やスタッフの方々におかれましては暖かいご支援、ご指導を賜れば幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。



放射線診断科 伊東 伸剛



放射線診断科所属で、IVRを得意分野としております。まだ認知度の低いIVRという言葉ですが、正式名称はInterventional Radiology、日本語では画像下治療と訳されています。レントゲンやCT、超音波などの画像診断装置を用いて体の中を透かして見ながら、体表からカテーテルや針を用いて治療や検査を行う技術のことです。体を大きく傷つけない、肉体的な負担の小さい技術で、実は古くから様々な場面で活用されています。私は以前からこの地域、この病院にご縁・愛着がありまして、このたび4月から念願叶っての二度目の赴任となりました。ニッチな分野ですが日々知識と技術を磨きつつ、少しでも広い分野、多くの患者さんに対してお役に立てるよう、最善を尽くしていきたいと思っております。

呼吸器内科 篠崎 太郎



2023年4月より東京医療センター呼吸器内科に赴任しました、篠崎太郎と申します。2014年に大学を卒業後、現在医師10年目になります。主に呼吸器疾患全般を担当しておりますが、特に肺癌診療を専門としています。少しでも地域の皆さまのお力になれるよう日々の診療に取り組んで参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

救命救急センター 駒ヶ嶺 順平



2023年4月より救急科に赴任となりました駒ヶ嶺と申します。約15年前に当院初期研修プログラムで学ばせて頂いた後、栃木県で救急医、そして総合内科医として勤務し、最近3年間はほぼCOVID-19入院患者のみを対象に診療しておりました。そんな中、東京に戻るにあたり、今回再び当院で働かせて頂くこととなりました。宜しくお願い致します。

循環器内科 橋本 健司



初めまして、慶應大学病院より異動となりました橋本健司と申します。大学病院では循環器領域の中で特に不整脈疾患を中心に、診療・臨床研究をおこなっておりました。不慣れなことが多くご迷惑をおかけすることも多いかと存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

救命救急センター 鯨井 大



2023年4月から救急科へ赴任いたしました鯨井大と申します。私は慶應義塾大学医学部・救急医学教室に入局し、平塚市民病院、済生会宇都宮病院などで修練を行い、救急疾患・外科疾患全般の診療にあたりながら、重症外傷・広範囲熱傷や急性腹症の患者さんの入院主治医として勤務して参りました。

東京医療センターは国立病院機構最大の基幹病院であり、救急患者も多く地域からのニーズも高い病院と考えております。自分の専門領域を活かしつつ、今まで培われてきた当院での救急集中治療に少しでも貢献できるよう努めさせていただく所存です。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



新任の挨拶（主任以上）

製剤主任 長尾 嘉真



令和5年4月1日付けで国立国際医療研究センターから着任しました長尾嘉真と申します。

主任として初めての施設が東京医療センターとなり私には力不足なのですが精一杯頑張っていきたいと思います。まず、部内の声に耳を傾け、力添えできるように取り組んでいきたいと思います。また、これまでのがん医療に携わってきたことを東京医療センターの患者さんにもより良い医療を提供し、支援できるよう努めて参りたいと思います。

調剤主任 鵜田 春一郎



4月より、国立精神・神経医療研究センターより調剤主任として着任いたしました、鵜田春一郎と申します。

約15年前、大学院の病院実習を当院で行い国立病院機構への就職を決意したことを思い出します。自分の原点とも言える施設で働くことができ、嬉しく思います。

当時とは薬剤部の業務も人数もだいぶ変わってしまいましたが、常に最先端に行く当院の一員としての自覚を持ち精進して参ります。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

治験主任 葛岡 朋代



渋川→村山を経て参りました葛岡朋代と申します。国立病院機構以前には民間企業で治験に従事しておりました。いつか東京医療センターのような規模の大きな施設で、様々な領域の治療や治験に携わりたいと願っておりましたので、このような機会を頂き、嬉しい反面身の引き

締まる思いです。至らない点も多いかと思いますが、日々成長できるよう努力を怠らず、自身の業務に全力で取り組んで参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

治療計画主任 秋葉 裕子



4月1日より千葉医療センターから参りました秋葉裕子と申します。以前東京医療センターに勤務しており、以前から存じ上げの方が多数いらっしゃるの心強く感じています。

放射線科は以前と比較すると若いスタッフが増えて、活気ある技師とともに充実した毎日を送っております。他施設での経験を活かしつつ、貢献してまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

臨床検査技師長 益田 泰蔵



4月1日付けで下志津病院より臨床検査技師長として着任いたしました益田泰蔵と申します。当院での勤務は初めてになりますが、以前勤務していた施設の宿舍が当院敷地内にあったため、20年ぶりに東ヶ丘の地に戻ってきて感慨深いものがあります。

当検査科は、国立病院機構の中でも多くの職員を有し、多岐にわたる検査に対応しています。職場長として、当院で必要とされる検査科とは何かを考えながら、適正な検査科運営を目指していきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

輸血管理主任 千葉 雅裕



霞ヶ浦医療センターより参りました千葉と申します。当院では尿検査等の一般検査を担当していますが、前任施設では主に微生物検査に携わっており、新型コロナウイルス感染症の対応に関わってきました。9年ぶりの異動、ましてや大規模施設で高度急性期医療に携わるとい

ことで頭も体もついていけるか不安ですが、今まで培ってきた知識と経験を活かし、一日も早く戦力となれるよう努めて参りますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

血液主任 阿部 浩



横浜医療センターより配置換えで着任しました阿部浩と申します。前施設では採血室・処置室に配置され、看護師さんと協力しながら働いていました。（私は採血、検体処理がメイン）。「検査は検査科の人に聞け」と言わんばかりに色んな質問を毎日のように受けたのを覚えています。

この東京医療センターでも他部署から頼られる技師として精進していきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

作業療法士長 竹田 恵利子



作業療法士長の竹田恵利子です。2011年までの3年間一般職として勤務し国際医療センター、埼玉病院を経て昇任で着任しました。12年間の月日を経て、かわらないこと、かわったことを感じ日々その意味合いを考えております。今年度は、ポストコロナにむけて柔軟に対応を変化

する必要性やチャンスがある要の年と捉え、微力ながらリハ科として病院に貢献できることを着実にすすめていきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

運動療法主任 山下 祥平



4月1日付で村山医療センターから参りました、運動療法主任の山下と申します。前院では主に、脊髄損傷患者や回復期病棟にて勤務しておりました。当院は学生実習以来になり、まさか実際に勤務するとは思いませんでした。久々の急性期病院で毎日緊張していますが、早く慣れりハビリテーション科の戦力になれるよう頑張ります。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

運動療法主任 佐藤 優史



4月1日付けで東埼玉病院から配置換えで参りました、理学療法士の佐藤優史と申します。前施設の東埼玉病院では神経難病や重症心身障害児者、回復期リハビリテーション病棟を中心に業務しておりました。前々施設は国立国際医療研究センターで急性期は3年ぶりとブランクがありますが、1日も早く業務に慣れ、東京医療センターの一員として病院に貢献できるよう努力して参ります。これからどうぞ宜しくお願ひ致します。

副看護部長 増谷 まり



水戸医療センターより昇任で参りました。着任して1ヶ月が過ぎましたが、まだまだ戸惑うことが多い日々です。たくさんの方々助けられながら、頑張っています。大都会の病院で、ビルばかりかと思いましたが、自然もあり、晴れた日には9階から見える富士山をみて癒やされています。皆様どうぞよろしくお願ひいたします。

外来看護師長 佐藤 三千世



4月1日付けで、甲府病院から配置換えで参りました、佐藤三千世と申します。当院には、2年前まで勤務していました。以前、外来患者さんが、「機械化が進み人と会話をしなくなると、無機質になりストレスが溜まる」と話されたことがありました。私は、そのお考えに共鳴し、患者さんとの対話を意識して心掛けてきました。患者の皆様には、医療相談窓口でお目にかかる機会があると思います。どうぞ宜しくお願ひ致します。

2A看護師長 松原 資恵



成育医療研究センターより異動して参りました。助産師として小児・周産期領域で長く働いていたので、わからないことや戸惑うことも多くありますが、たくさんの方々に優しく教えていただき日々奮闘しています。2A病棟は脳外科・脳神経内科・形成外科の病棟です。突然の発症に伴う身体的な問題や不安のある患者さんやご家族に対して、安全で信頼される看護を提供できるよう病棟スタッフや他職種の方々と共に取り組んでいきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

6B看護師長 滝澤 丹



災害医療センターから6B病棟看護師長に昇任で参りました。前施設よりも規模の大きな急性期病院で多くの方からご支援いただき、日々励んでいます。これまで腎臓内科、泌尿器科などを経験してきました。また、救急医療や災害医療にも携わってきました。急性期にある患者様およびご家族に温かい看護を提供出来るように頑張ります。よろしくお願ひします。

9B看護師長 矢野 愛



東京医療センターには学生の頃からお世話になり、産婦人科病棟で副看護師長を経験した後、この2年間は環境省のアスベストによる健康被害者を救済する部署にて、医学的判定にかかる業務を担当しておりました。この度の着任にあたり目標は多々ございますが、まずは安全で確実な看護の担保、そして看護師同士がお互いに支え合い高め合える職場となるよう、日々努力してまいります。

経営企画室長 笠原 正寛



東京医療センターに着任して1ヶ月が経過しました。世の中は、新型コロナウイルス感染症の影響で長期間停滞していましたが、5類に移行したことで「コロナ前の平常どおりの生活に戻ろう」と、活発に動きだし明るい兆しが見えてきました。自分自身も6年ぶりに東京医療センターに戻って参りました。心機一転で気持ちを新たに、前向きにして病院と医事室の職員のために頑張る所存です。そのために、日々研鑽しながら業務に取り組みたいと思ひますので、皆さまのご指導とご協力のほどよろしくお願ひいたします。



業務班長 太田 聡



水戸医療センターから参りました、業務班長の太田です。

東京での勤務も、長時間の電車通勤も人生で初であり、業務内容も初めてのことばかりで非常に戸惑っておりますが皆様のお力になれるよう精一杯努力しますので何卒、よろしくお願いいたします

専門職 鈴木 慧



4月1日付で診療情報管理専門職として着任いたしました鈴木慧と申します。

前施設は、国際医療研究センター病院でした。

東京医療センターで勤務できることとなり、身の引き締まる思いであります。

専門職としてデータを利活用し病院経営の一助になれるよう貢献できればと思います。早く業務に慣れるよう精一杯頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

外来係長 小林 祥



4月1日より国立国際医療研究センターより外来係長として着任いたしました小林と申します。

私はこれまで「国立成育医療研究センター」、「国立国際医療研究センター」とNHO以外の施設を経験しており、初めてのNHO施設となるため気持ちを新たに業務に取り組んでいきたいと考えております。

外来係長は病院の『顔』ともいえる部署の係長で、患者さんとの距離が近い部署となりますので、東京医療センターの魅力を感じていただけるような病院となるよう精進して参りたいと思います。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

給与係長 篠原 弘樹



4月1日付で給与係長として着任いたしました、篠原弘樹と申します。

前施設では契約業務を担当しておりました。今回担当させていただく給与業務・人事業務は、入職以来初めての拝命であり、身の引き締まる思いであります。

給与業務・人事業務の遂行をとおして、適正な病院運営に尽力して参りたく存じます。不慣れなこともございますが、係一同、全力で取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

職員係長 富沢 友菜



4月1日付で昇任にて参りました。前任地は東京都立川市にある災害医療センターで、5年間勤務しておりました。新しい勤務地・未経験の業務に慣れない日々が続きますが、温かく向かえ入れていただき、ありがたく思います。

これから担当いたします管理課職員系の業務を通し、最前線で医療業務を行う職員の皆様の支えとなれるよう努めて参ります。至らない点ばかりかと思いますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



研修医の抱負

代表 大川 貴寛

目黒・世田谷区の地域の皆様はじめまして。4月から初期臨床研修医として勤務しております、大川貴寛と申します。

医師としての第一歩を、この東京医療センターという素晴らしい環境で踏み出せることを大変嬉しく思います。

「患者の皆様とともに健康を考える医療を実践します」という当院の理念を大切にしながら、来院される患者様、そして職員の皆様に少しでもお役に立てるよう、日々精進して参ります。

副代表 研修医一年目 中村 有彩

初期臨床研修医1年目中村有彩と申します。

6年間の大学生活を経て、生まれ育った地域で働くことができ大変嬉しく存じます。

初めてのことばかりでまだ慣れませんが、24名の同期と支え合い切磋琢磨していく所存です。また、初心を忘れず日々の診療に丁寧に向き合って参ります。

何かとご迷惑をおかけするかと思いますが、一日でも早く皆様のお役に立てるよう日々努力いたします。どうぞよろしく願いいたします。



新人看護師の紹介と新人看護師の抱負

教育担当看護師長 近野 美穂



新採用者看護部合同オリエンテーション「感染管理」演習風景

「2023年度入職しました、新人68名です。どうぞよろしくお願いいたします。」

今春、看護部には、北は北海道から南は九州より、全国各地から68名の新人看護師・助産師を迎えました。夢と希望に満ち溢れ、それぞれが部署に配属され、看護師・助産師としてのスタートラインを切りました。専門職業人としての基本的な態度を身に付け、患者さんやご家族へ安全で安心した看護が提供できるように、学生時代に習得した知識や技術を土台とし、入職後から集合研修・職場内での研修を行っています。4月下旬頃よりは、先輩看護師とペアとなって患者さんを受け持つようになり、指導を受けながらケアに取り組んでいます。少しずつ職場の環境にも慣れ、入職当初の緊張した面持ちも和らぎ、笑顔で患者さんやご家族と関わることができるようになってきてい

ます。

東京医療センターの看護部の理念は、「心の豊かさを重視した質の高い看護を提供する」です。入院、治療を余儀なくされた患者さんやご家族の思いに耳を傾け、その意思を尊重した看護を提供し、安心と信頼に応えられる看護師になれるように教育担当者として支援していきます。先輩看護師も新人看護師の良い手本となるように、お互い看護観を深め合い、成長できるように切磋琢磨しています。新人看護師はまだまだ未熟なところもありますが、これからの成長を見守っていただけますと幸いです。

どうぞよろしくお願いいたします。



4階C病棟 山田 哲平

今年度より東京医療センターに入職し、4C病棟へ配属となりました。

4C病棟は救命救急センターとなっており、高度な治療が必要となる患者様へ看護を提供しています。現在は覚えることで精一杯で思うような看護ができず、もどかしさを感じていますが、同時にできることが増えていく度にやりがいも実感しています。今後は、患者様の苦痛や思いを汲み取りその人らしさを模索しながら、過酷な環境の中に少しでも安らぎを感じてもらえるよう日々邁進していきます。



7階B病棟 関口 優花

私が配属された病棟は、病床数28床の有料混合病棟です。様々な疾患に罹患している患者さんが多く入院しており、様々な疾患や診療科を学ぶことができる病棟です。私は、忙しいときでもそうでないときも同じように、患者さんの声に耳を傾け、患者さんが安心して療養できるような声かけをしたいと思っています。そして、患者さんが安心して安楽に治療が受けられる環境をつくることが出来る看護師になりたいです。

みんなが知りたい病気シリーズ ～大腸がん～

一般・消化器外科 島田 岳洋



【大腸がん】

日本人の2人に1人はなにかのがんに罹患するというデータがあります。そのなかでも大腸がん（結腸がん・直腸がん）は、診断される方は年間15万人で、高齢化と食生活の欧米化により増加しています。

日本人の部位別がん死亡数において男性で2位、女性で1位となり、多くの方に関係のある病気と言えます。（図1）テレビで大腸がんに関するニュースが流れると、お問い合わせをいただくこともあります。本日は大腸がんという病気について、なるべくわかりやすくお話ししたいと思います。

【がん】

この病気は悪性ですか？というご質問をいただくことがあります。

がんは、悪性腫瘍ともいいます。悪性腫瘍とは、無秩序に増殖しながら周囲にしみ出すように広がり（浸潤）、血の流れやリンパの流れに乗って他の臓器で増殖（転移）するもののことをいいます。なんらかの治療をしなければ、転移・増殖し命に関わることは間違いありません。



（図1）日本対がん協会HPより

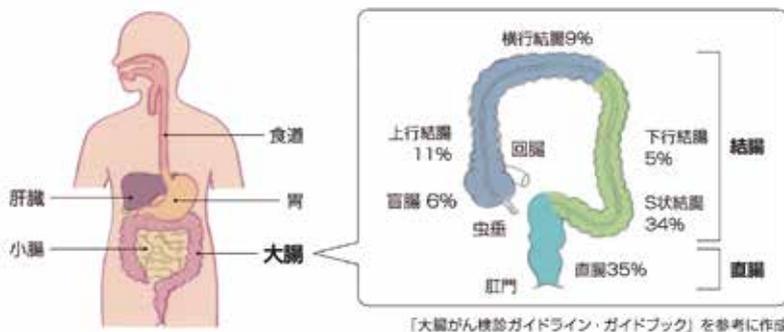
【大腸について】

大腸はお腹のなかを右から上、左へぐるとまわる結腸と、骨盤内の直腸に大きくわかれます。大腸がんの約7割は直腸やS状結腸に発生します。（図2）

【どんな症状？】

がんがある程度の大きさになると、血便や下痢・便秘、便の狭小化（細くなる）などの症状が現れます。早期がんではほとんどが無症状です。また、大腸は長く、症状の出方はがんができた部位により異なります。結腸の右側（上行結腸から横行結腸）にできた場合、左側（下行結腸から直腸）よりも症状があらわれにくい傾向があります。（図2）

図表1 大腸の構造と大腸がんの部位別発生頻度



図表2 がんができた場所による症状の違い

がんができた場所	結腸の右半分	結腸の左半分	直腸
出血	× わかりにくい	○ 赤黒い血便～粘血便	◎ 赤色の血便
便秘異常・腹痛	× 起こしにくい	◎ 起こしやすい	◎ 細い便、残便感

（図2）もっと知ってほしい大腸がんのこと（大腸癌研究会HPより）

【なぜなるの？なりやすい人はいるの？】

喫煙、飲酒、肥満により大腸がんが発生する危険性が高まるといわれています。女性では、加工肉や赤肉の摂取により大腸がんが発生する危険性が高くなる可能性があるといわれています。また、近親者に大腸がんの発生が多くみられる家族性の大腸癌も存在します。ただ、こういったリスクのみで発がんするわけではありません。

【進行と年齢は関係あるの？】

ご高齢の方のほうが、進行が遅い、と思われていることもありますが、基本的にはがんの進行に年齢は関係ありません。

【どういうふうに診断するの？】

検診で便潜血検査（便の中に混ざっている僅かな血液を検出する）が陽性の場合や、がんを疑う症状がある場合は、大腸内視鏡（大腸カメラ）を行います。がんを疑う病変が見つかった場合は、内視鏡の先から鉗子という道具で病変を一部採取し、顕微鏡で検査を行います（病理組織検査）。そこでがんの細胞が見つければ、大腸がんの診断が確定します。

【ステージって？】

診断が確定したのちに、CTなどの画像検査、採血での腫瘍マーカー検査を行い、がんの拡がりを調べます。①がんの深さ ②リンパ節への転移 ③遠くの臓器への転移 を調べ、病気の進み具合、つまりステージを診断します。このステージにより治療方針が大きく異なります。

(図3)

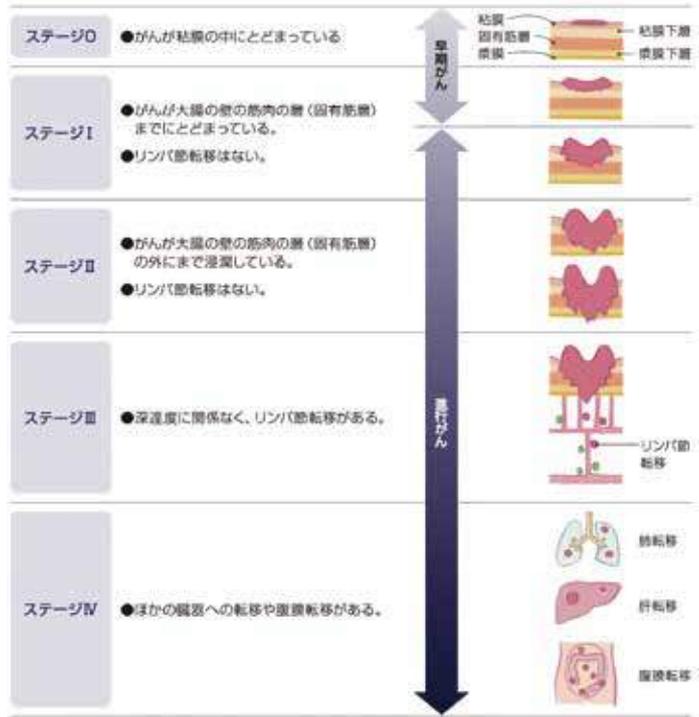
【治る病気なの？治療は？】

大腸がんはほかのがんよりも比較的治りやすいがんの一つです。肝臓や肺など、他の臓器に転移していても、手術で完全に切り切れれば治る可能性も十分あります。

治療は内視鏡治療、手術、化学療法（抗がん剤）、放射線治療がありますが、基本的にはステージにより決定されます。(図4)

【人工肛門になるの？】

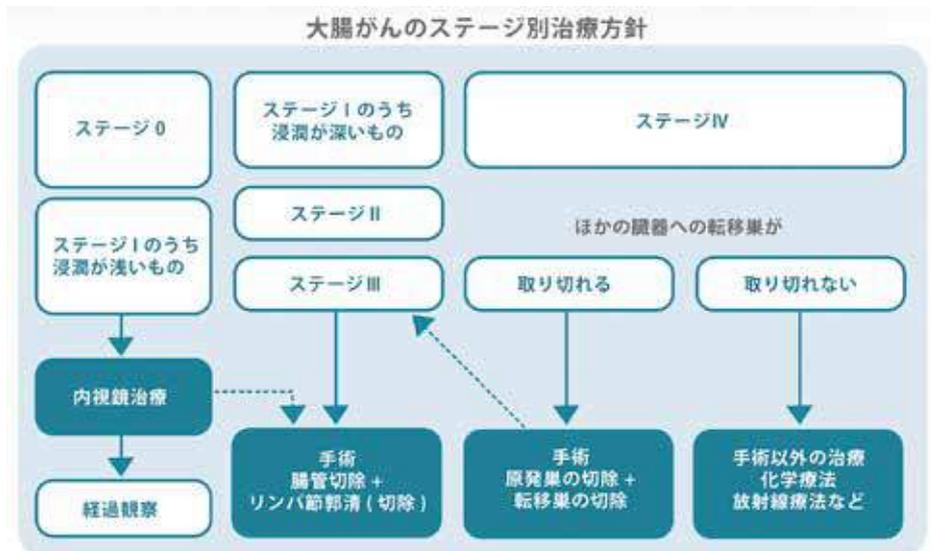
結腸がんで人工肛門になることは基本的にはありません。直腸がんで、かつ肛門に



(図3) もっと知ってほしい大腸がんのこと (大腸癌研究会HPより)

かみこんでいるようながんの場合、人工肛門になる可能性があります。しかし、近年では直腸がんに対しては化学療法、放射線療法を組み合わせた治療がおこなわれており、肛門温存の可能性は大きく上がっているのが現状です。

大腸がんについて、手術治療の詳しい内容については過去の東京医療センターだよりでもお話しておりますので、ぜひご覧ください。当院では最新のロボット手術も積極的に行なっております。いつでもご相談を受け付けておりますので、お気軽に声をおかけください。



(図4) 大腸癌治療ガイドライン2022より

登 録 医 紹 介



三軒茶屋眼科

SANGENJAYA EYE CLINIC



院長
窪田 美幸

院長あいさつ

2002年に三軒茶屋に開業して以来東京医療センターの皆様には大変お世話になっております。また、2015年以来世田谷区医師会会長を務めさせていただいておりますが、医師会会員との医療連携を密にとりいただいております事を医師会を代表いたしましてこの場を借りて御礼申し上げます。

当医院は近隣の患者様が安心して専門的な医療を受けられるよう日々努力を重ねております。眼科のみならず健康的な生活をおくる為になんでも相談できるかかりつけ医的な役割を担うことができたらと思っております。

医師会公務の為診療時間の変更や休診が大変多くなり患者様にはご迷惑をおかけいたしております。あらかじめ当院のホームページやお電話で確かめてからご来院いただけたらと思っております。ご予約も承っております。

スタッフと共に皆様に安心して快適にご利用いただくために日々努力を重ねておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。



診療科・医院案内

眼科・アレルギー科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:30~12:30	●	●	●	—	●	●	—
15:00~18:00	●	●	●	—	●	—	—

休診日☒木曜日・土曜日午後・日曜日・祝日

〒154-0024 東京都世田谷区三軒茶屋1-5-14 パラスティアイ103
TEL: 03-5432-4517



都立大石森脳神経外科

院長あいさつ

2016年4月に目黒区八雲に都立大石森脳神経外科を開院致しました。

日本脳神経外科学会専門医、日本脳神経血管内治療学会専門医、日本認知症学会専門医として、脳神経疾患、一般内科、生活習慣病、頭痛、めまいや認知症患者様の診療を中心に、MRI・CTの即日検査を可能にしたバリアフリーのクリニックです。



院長
石森 久嗣

交通外傷、頭痛、めまいなどの一次救急の受け入れや点滴治療も対応しております。

29年間の脳神経外科医としての経験を活かし近隣の皆様の健康のお役に立てればと考えております。

どうぞよろしくお願い致します。



診療科・医院案内

脳神経外科・神経内科・内科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	●	●	●	●	●	▲	●
14:30~18:30	●	●	●	—	●	—	—

※土曜 9:00~15:00
休診日☒木曜日午後・祝日

〒152-0023 目黒区八雲1-5-5-1F
TEL: 03-3725-0177

地域医療連携室からのお知らせ

地域医療連携係長 清水 裕子

4月から地域医療連携係長を拝命いたしました清水裕子です。副看護師長の小野瞳とともに地域医療連携室のメンバーが一新いたしました。当院と地域の先生方、患者の皆様との橋渡しの存在になれるよう努力してまいりますので宜しくお願いいたします。

当院は、地域医療支援病院として紹介患者さんに対する医療の提供や、かかりつけ医への患者さんの逆紹介、医療機器の共同利用などを行っています。高度・急性期を担う総合病院・地域がん診療連携拠点病院として、当院の特徴を活かした診療をチームで行えることが当院の強みと思っております。地域医療連携室は、近隣の病院や診療所などからご紹介いただいた患者さんが安心して医療が受けられるために重要な役割を担っております。地域の先生方にもご協力いただき連携がスムーズに行えるよう体制を整えてまいります。

さて、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、当院

でも発熱等の症状がある患者さんの対応や入院患者さんの面会が徐々に変更になりつつあります。詳細は、随時ホームページ等でお知らせいたしますのでご確認ください。

また今年度からは、地域の医療従事者の方を対象にオンラインで行って行っていました地域医療カンファレンス等を、対面で行うことを計画しております。先生方と直接お会いしご挨拶させていただき、率直な意見をいただけることを今から楽しみにしております。



フォトコーナー



放射線科 K さくら



臨床検査科 Y そら



臨床検査科 T イヴ



放射線科 O わさび

